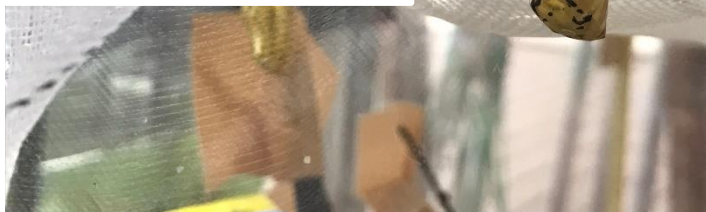




じ めい けん りょく 自 明 健 力

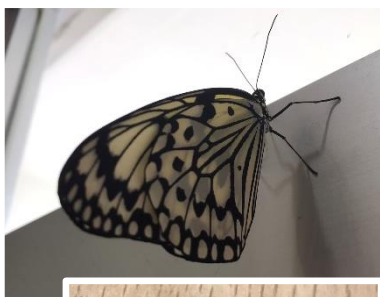
有銘幼稚園・小学校
学校だより 第6号
令和5年6月5日(月)
文責：園長・校長 前川

ゴールドラッシュ！ 黒→金→白&黒



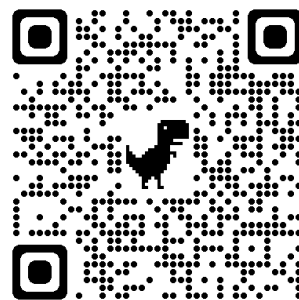
オオゴマダラの幼虫と蛹。飼育していた幼虫が蛹に変態しました。＝5月30日、有銘幼稚園飼育箱

2年生の陽さんと幼稚園生が飼育しているオオゴマダラの幼虫が蛹になりました。黒い幼虫が木の枝や、天網にぶら下がり、数十分すると、まるで人がぶら下がり腹筋運動をしているかのように、動きだしました。しばらく観察を続けると、下になった頭の後ろのほうから皮が割れ、金色のサナギの一部が見えました。その後も体をゆらし続け、黒い皮を上の方にずらしながら全ての黒い皮をポイッと脱ぎ捨てると金色のサナギになりました。幼虫がサナギに変わることを蛹化（ようか）といいます。蛹（さなぎ）になった表面をよーくみると、成虫の羽が折りたたまれ、その羽にある模様が黒くなっているのがわかりますね。



サナギから羽化したオオゴマダラの成虫（写真右、左上）、残念ながら蛹化に失敗して息絶えた幼虫（写真左下）＝6月5日、有銘幼稚園および小学校飼育箱

幼虫がサナギになる動画とその際の子どものつぶやきは、下のQRコードでダウンロードしてご覧になれます。（データ容量 106MB、再生時間 5分 21秒）



6月1日～6月4日の4日間で、金色のサナギが白と黒の模様のオオゴマダラの成虫に羽化していました。幼稚園生だけではなく、小学校の廊下でも観察してできるようにしているため、子どもたちは、幼虫からの成長の様子を観察しています。「うわぁ、きれい」「校長先生～、チョウになってるよ」「失敗しちゃったのもいる」等、子どもたちの反応も様々です。立派に羽化したことを喜ぶこともステキですが、残念ながら成長の途中で命を落とす場面は、ただ残酷なのではなく、生命が生き抜くことの大変さを子どもたちに考えさせてくれるのではないのでしょうか。生き物の成長の様子に目を輝かせ、特に、短い時間で体の様子が大きく変化するオオゴマダラの成長は、アルメンジャーたちが命について考えさせてくれています。